

美が、
さもなくば死を

林真理子



マガジンハウス文庫

美^びか、さもなくば死^しを

2011年9月8日 第1刷発行

著者

林 真理子^{はやし まりこ}

発行者

石崎 孟

発行所

株式会社マガジンハウス

〒104-8003 東京都中央区銀座3-13-10

電話 受注センター 049-275-1811

書籍編集部 03-3545-7030

印刷・製本所 中央精版印刷株式会社

本文デザイン 鈴木成一デザイン室

文庫フォーマット 細山田デザイン事務所

乱丁・落丁本は小社製作部宛にお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
定価はカバーと帯に表示しております。

<http://magazineworld.jp/>

常州大学图书馆
藏书章
林真理子



美か、さもなくば死を



目次

美女

皆伝！？

美女皆伝!? 10

妄想女の夕べ 15

マダムの着こなし 20

スーパー美女対決! 25

ハリと絶食 30

甦るアクセ 35

マリコ、負けるな! 40

毒を喰らわば! 45

エロが足りない 50

ウエディングベルが鳴っている 55

男と女の性の偏差値 60

女子アナの不思議 65

お洋服のバチあたり 70

見せブラはOKでも 75

きゃしゃな体になりたい 80

噂のハヤシマリコ 85

大金持ちの生活 90

歯と良縁 95

美人の掟

- 大人のジーンズ 102
- メイ・アイ・ヘルプ・ユー? 107
- 愛はすぐそこ 112
- スピリチュアル・ダイエット 117
- おひとりさまの限界 122
- スイーツは偉大 127
- 春の誓い 132
- 賞賛をこの手に 137
- 美のカリスマたち 142
- どうにでもなれ 147
- 美しさの秘密に迫る 152
- VIPにぞっこん 157
- 試着室の教訓 162
- 愛とバラなんか 167
- おしゃれの限度額 172
- 自力でいこう 177
- 架空の恋より 182
- 痩せたい人がいっぱい 187
- 美女のご相伴 192

美女と

偏見

不倫の真実 198

世間は見てる 203

これが女の正しい道 208

グラビアが待っている 213

大人の合コン！ 218

ふて寝デイズ 223

魔法が解けた 228

華やかな悩み 233

勝負あり 238

エロの掟 243

都合のいいルール 248

よからぬ想像 253

真夏の悲劇は繰りかえす 258

明日からダイエット 263

いい男の効用 268

美女と偏見 273

払ってオーラ発生 278

魔のニットシーズン 283

もののハズミに乾杯 288

美か、さもなくば死を





美女
皆伝！?

美女皆伝!?

夏休み、関西からメイっコがやってきた。今年高校に入った彼女は、勉強好きのとてもいいコなんだけど、おしゃれはまだまだ。東京のコのようにはいきません。

私服の学校のため、毎朝頭を悩ませているようだ。

「じゃー、お婆ちゃんが洋服買うたる」

「えー、ほんま」

「ほんまや。安いもんなら、なんぼでも買うたるで」

なぜか関西弁になり、胸をどーんと叩く私。しかし渋谷の「109」へ行くのは、ちよっと気後れしてしまう。こうなったら私のエリアへ。そう、表参道へと向かった。



まずは「コム・サ・カフェ」でお茶。ここのケーキのディスプレイに、田舎のコは圧倒されてしまうようだ。

お茶の後は「イタリアン通り」の方へ向かうと、ご存知右側は、おしゃれ人間の聖地「コム・デ・ギャルソン」だ。

「わー、カッコええなア。中に入ってみたいなア。でも恥ずかしいワ」

「おばちゃんと一緒になら平気やで。でも、あんたのお父さんには、どっかに行ってもらおう」

娘かわいさのあまり、後ろからついてきたのが、私の弟。こんなダサイデブと入っていったら、私はもう二度と「コム・デ・ギャルソン」の敷居をまたげない。そんなわけで弟に退去を命じ、近くの喫茶店に行ってもらうことにする。そしてメイッコと私はお買物。彼女にはスタジャンとTシャツを買ってやり、私は「GINZA」のグラビアに出ていたクラフト風ニットのジャケットとスカート、そしてバラの花がいっぱいついたオーガンジーのジャケットを購入。

コム・デで買物するのは久しぶりだ。最近すっかりコンサバ路線になっている私である。私の友人の音楽家は言ったものだ。

「僕たちみたいな仕事をしていたら、月に一度は必ずコム・デ・ギャルソンで買物し

なくちゃいけないんだ。着なくてもいいから、先端の空気に触れ、自分のものにする
ことが大切なんだ」

が、コム・デを着るには、髪型もメイクもそれ風にしなくてはならない。靴もコー
ディネイトするものもすべて変わる。コム・デのトップに、コム・デ以外のボトムス
は絶対に合わないからだ。

私は次の日、グラビア撮影があり、買ったばかりのバラのジャケットを着ていくこ
とにした。が、スカートがない。あんなに何枚もコム・デの黒のスカートを持ってい
たはずなのにどうしても見つけることが出来ない。そして探し出したのが、何年か前
に買った黒のスカート。木綿でやっぱりバラの造花がついている。バラとバラで、買
ったばかりのジャケットと合わないことはないのだが、かなりデコラティブになる。
どっちかをシンプルにしなくてはいけないのはわかってはいるけど仕方ないわ。

そして撮影場所へ。最初に例の顔筋マッサージを元祖田中宥久子先生の手で三十分
やってもらった。すると自分の顔がピーンと上がり、小顔になったのがわかる。

「ハヤシさん、別人みたい」

「すごい、すごい」

の大絶賛であった。コム・デのお洋服も大好評で、すごく可愛いと誉められた。

「ハヤシさん、すごくおしゃれになったよねえ。きれいになったしさ」

デビューした頃から撮ってくれていたカメラマンのAさんが言う。

「でも僕は、ハヤシさんの昔の顔も好きだよ、すごく可愛かったよ」

そお、ブス、ブスと叩かれていた頃ね。

「ハヤシさんは、生まれてくるのが十五年早かったんだよ」

彼はきっぱりと言った。

「今だったら、昔のハヤシさんの顔は、”ブス可愛い” って言われて、いちばん流行の顔なんだよ。ハヤシさんは背もあるから、結構いい感じで、ファッション誌飾れたかもね」

そうだったのか……。屈辱的な記憶が甦る。昔は、唇が厚く大きい、というのはブスの最大条件のひとつであった。私なんか撮影のたびに白くファンデーションで塗りつぶされ、その上からおちょぼ口を描かれたのである。なんちゅうか、美人が画一的でワンパターンだった。

「私の青春返して！」

いつのまにかつぶやいていた。あの頃、誰かが誉めてくれたら、ダイエットもちゃんとし、うんとおしゃれをしたはずだ。そして男の人が次々と寄ってきて、私も「恋

多き」とか「奔放な」と言われたかも。

その後、仲間の飲み会に出たら、やはり私の小顔が話題になった。すごくキレイと男友だちは言う。

「ハヤシさん、もう『美女入門』なんて言っちゃダメ。『皆伝』にしなさい。こんなにモテるんだしさ」

私は叫んだ。

「メル友や、ちょっとちやほやされても、何がモテるんじゃ！ 押し倒されてこそ、

初めて女はモテるって言うんじゃない。もう遅いよー」

みなはニヤニヤ笑っていた。

妄想女の夕べ

世の中に「勘違い女」というのがいて、私はこの手合いが大嫌い。

「ふん、あんたなんかナンボのもんじゃ」

とテレビや雑誌を見るたび、ワルグチを言っている。私はさしずめ「妄想女」であらうか。男性に関してかなり好き勝手なことを考えるが、相手に言ったこともなく、よって人さまに迷惑をかけたこともない。ジョークの種にしては笑わせるぐらい。

さて今年（二〇〇五年）のお正月、元アンアン編集長のホリキさん、このエッセイの元担当、ホッシーことホシノ青年、そして今超人気のスピリチュアル・カウンセラー、江原啓之さんと一緒に恒例の「開運ツアー」に出かけた私。ある神社でおまいり

